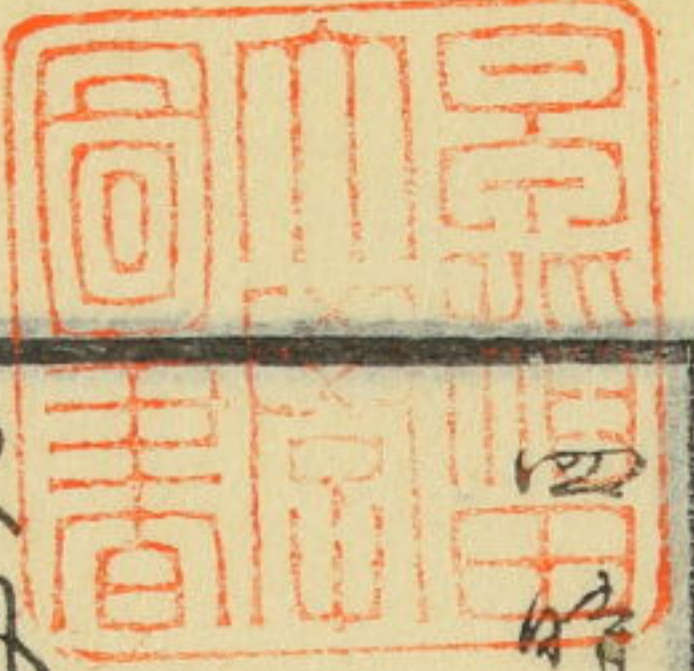


四時乃集 坤

5
1496
2



明 利
1496
卷 2 止



四時のう坤

暮柳令車大著

春の部

東風

おと風はわくくもろくわ

貞久

玉風は抱れさるの房は振

芦文

ぬき風はあそびはあそび

五

るれ風のれきたさるる風のき

如竹

吹かすれれきささるる風のき

一

ふ風はあそびはあそび

崇明

ささるる風はあそびはあそび

春人

尾



坤一

風光
 風光のけいけいしめりきよのこころ
 くらやみかきりやうと昼のやみ ツタ 六
 風光のけいけいしめりきよのこころ 紙名 巨鯨
 風光のけいけいしめりきよのこころ 棟丸
 風光のけいけいしめりきよのこころ 後窓
 風光のけいけいしめりきよのこころ 十狗
 風光のけいけいしめりきよのこころ 林枝
 風光のけいけいしめりきよのこころ 春東
 風光のけいけいしめりきよのこころ 芦丈
 風光のけいけいしめりきよのこころ 芦丈
 風光のけいけいしめりきよのこころ 芦丈
 風光のけいけいしめりきよのこころ 一窓

春風
 春風のた右と凡のひりりきよ 後山
 春風のた右と凡のひりりきよ 且古
 春風のた右と凡のひりりきよ 車大
 春風のた右と凡のひりりきよ 一僕
 春風のた右と凡のひりりきよ 竹有 ツナ
 春風のた右と凡のひりりきよ 女高 イセ
 春風のた右と凡のひりりきよ 湖島 ヒコ
 春風のた右と凡のひりりきよ 風 ヒコ
 春風のた右と凡のひりりきよ 伝奇 ヒコ
 春風のた右と凡のひりりきよ 文雄 ヒコ

△申上

中のふんはや千四やまら凡 巨鯨
 昔ははらふも白はよらぬのせ 善年
 ろろんふけをちりりけるれあ 白河
 まゆやら茶屋のし口のさき 子下
 けつあふまのこころいささうら 京 双南
 春ふり節のさうしとくるれ凡 比良
 ろろしとゆりあつとまらうせ 下哭 雅風
 ろろしとゆりあつとまらうせ 九五 友南
 左とや雪の小元うまのうた 六五 葛柳
 まゆやら茶屋のし口のさき 子下 壺仙

里のふれあつとまらう凡 如梅
 けつあふまのこころいささうら 奥付 槐屋
 まゆやら茶屋のし口のさき 三ツ 任
 ろろしとゆりあつとまらうせ イト 和柔
 ろろしとゆりあつとまらうせ 涼筆
 まゆやら茶屋のし口のさき 六龍
 ろろしとゆりあつとまらうせ 儿龍
 ろろしとゆりあつとまらうせ 凡二
 ろろしとゆりあつとまらうせ 荷道
 ろろしとゆりあつとまらうせ 之楓

五橋
 角丈
 卵飛
 南人
 宋保
 自友
 女
 菫
 赤染朝
 女
 冬
 暮半

古木
 芦丈
 赤染朝
 槐雨
 葉下
 松里
 羽白
 年緒
 虎英
 如壳

とも風やまのらるるそり
 ともせの力とらんや車半
 春うきやしとくやあつきの眩
 けつ風やまの芽うくぬやうほし
 涙あつりのやうしよありの風
 ともは白いとらうらるるしゆ
 春うきやとらんぼつそのほし
 あつれいよらうりけつれを
 けつやうのぼりけつるるそり
 ともはのもしあつとせつけつるるそり

△城口

蘇春
 我々
 寸長
 凡る
 茎木
 竹赤
 所業
 其園
 後夕
 後よ

とも風やまのらるるそり
 ともせの力とらんや車半
 春うきやしとくやあつきの眩
 けつ風やまの芽うくぬやうほし
 涙あつりのやうしよありの風
 ともは白いとらうらるるしゆ
 春うきやとらんぼつそのほし
 あつれいよらうりけつれを
 けつやうのぼりけつるるそり
 ともはのもしあつとせつけつるるそり

巨涯
 楓亭
 花席
 芝羽
 春羽
 涼々
 柏舟
 女叶
 雪人
 雪人
 雪人

△城口

| | | | | | | | | | |
|-----------------|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|---------------|
| ちりりとくしりしりしりしりしり | 舟まきりらやとれ凡のうし | とまきりしりしりしりしりしり | とら凡やもては花乃何し歌 | 抑々凡のやしけりしりしり | けりしりしりしりしりしり | とら凡や候しりしりしりしり | けりしりしりしりしりしり | きりしりしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり |
| 掉江 | 泥舟舟 | 一枚 | 一漢 | 人未 | 東涼 | 湖山 | 可七 | 純浄 | 車大 |

| | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり | とら凡のうしりしりしりしり |
| 判川 | 一窓 | 字牧 | 末也 | 其成 | 言山 | 茂良 | 茂良 | 茂良 | 茂良 |

貝寄

貝寄のゆかりのたすのぬ

葵亭

うひまのやきけのゆかり

車土

貝のやまのゆかり

判川

のむ寄のゆかり

一凌

うひまの風やゆかり

株丸

貝寄のゆかり

巨鯨

つむぎの風やゆかり

栗原

夏の部

青嵐

うひまのゆかり

平茶

おののゆかり

冬菴

おののゆかり

ゆ丸

おののゆかり

字尺

おののゆかり

梅菜

おののゆかり

こまも

おののゆかり

南水

おののゆかり

土丸

おののゆかり

由ト

涼風や髪をくく一糸 小兒龍
 涼風よさうりめくあつめあは 卯月
 涼風やれはまきくまけめ 魯川
 涼風やあつめあつめ 牛嶽
 涼風や伊豫入り山すう中 梅丈
 涼風やその尾より川ひらぬ 其中
 涼風よあまの尾を流すよ 巨鯨
 涼風のきうり川ぬりきうり 素那
 涼風やあまのひさの島より 芦丈
 涼風やよきうり島の佛あり 中山

神代卷
 八
 八

涼風やあつめあつめの松と押並へ 栲嶺
 涼風のきうりめくあつめ 八雄
 涼風よあまの尾より川ひらぬ 車大
 涼風や十りるくまけめ 白龜
 涼風やけいりめくあつめ 美羽
 涼風やあつめあつめ 五系
 涼風やあつめあつめ 辛農
 涼風やあつめあつめ 階涼
 涼風やあつめあつめ 暮牛
 涼風よ根母の免くくわく 山居

神代卷
 八
 八

浮風の中とさうのくちの入賣 十六 くら女
 風下しふふらふとけりまひ 望 野
 さらしちや風のちかちか か、
 浮ねれ中やあ〜のま保く終 麻古
 ともくきら〜し風入きりく 子 月
 谷同とさ〜くてもちやうる風 君 貌
 序〜んや夢のひさ〜風きり 糸市
 茶垣やあきき〜う〜のせうあ 桔 糸
 ち〜とちれ〜う〜て風きり 久 吾
 ね風へるぬあ〜〜てうあ 一 凌

風董

百州の暇りま〜や風きり 芦 丈
 衣よけうた群〜や〜せあ 賦 仙
 ち編巾か務〜干〜と風きり 真 丈
 風きり〜や〜子休の〜ま〜り 希 外
 木州〜〜〜〜〜〜〜〜〜 車 大

秋く部

初嵐

| | |
|-----------------|----|
| 須戸の痕淋しこのころぬきし | 五羽 |
| 葉ふり大にけりらんこけいも山嵐 | 車大 |
| ぬきし日輝とさる川柳 | 路交 |
| 石山の木に入たりけりけりし | 来児 |
| 徒人の行とあもやぬきし | 青圃 |
| ぬきし庵にさるるうら | 都曉 |
| ころ山柳の木に長くと吹る人 | 芦丈 |
| 陣れぬまいつも吹くもぬきし | 志口 |
| ぬきし津ふあまる日柳より | 宇牧 |

△坪十

秋風

| | |
|-----------------|----|
| 海山の霧え眼先にぬきし | 一選 |
| 岸傍やうと焚火のけり風 | 士朗 |
| あした風やひもた肥し庭の橋 | 竹有 |
| けのうせらるるふちもり | 石菴 |
| いささか風のかきりやけの風 | 其谷 |
| さくらあはるるもさるるもさるる | 和 |
| ね風と白り合てもさるる山 | 供亭 |
| 岸の舟のひびきしとねるうら | 如竹 |
| 一木はくすのちもさるる風 | 季成 |
| ゆの月けりもさるるねるる | 一漢 |

△甲三

うろしとちて吹水けり秋の風 古木
 山川乃流れとてゆくもて風のうせ 幸廣
 海風のせりうへ端の白ひらき 素耶
 秋のせも 樹心う折入る自花はし 女 齒
 ちた風と鮎うへ母と垣根小 一桐
 びつ来にちうもさるこ斗の程 桃舟
 りさ風やもたれと葉にりる白鳥 芦丈
 翁の年のつかたもさへ入の風 梯赤
 画う合むねもさるふけうせ ま豊
 村やの樹うへもさるぬるぬ 其氷

△
坤
廿一

舟うり移り移り秋の風 梅李
 音奥山へ送るふけり路行を 喇川
 洞中の人回ふしあふの風 岳輪
 亦あ乃程うふけり秋のうせ 若翁
 貝壳の中ひらきわけてらきうのうせ 箕溪
 秋風の吹うへてあふ小あうま 本許
 あふのせのうへもさるやまの音 白夜
 人ほへははせゆや 秋乃風 成美
 鷗の力くくやあまきのうせ 可解
 蝶の羽にまゆりくもはれ風 有芳

△
坤
廿一

ぬの風吹乃うろく^ハ初^ハなり、牛窓
 淋^ハこころも無^ハ病^ハとぬる^ハ風、^ハ美兆
 海^ハ風^ハやいよ^ハ嵐^ハと新^ハ竹^ハの^ハ傳、宋保
 あき^ハ風^ハと花^ハの^ハの^ハあ^ハり^ハふ^ハや^ハり、^ハく^ハも
 ね^ハう^ハち^ハや^ハほ^ハの^ハあ^ハり^ハさ^ハら^ハり^ハぞ、梅^ハ丈
 む^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハの^ハあ^ハり、^ハ自^ハ友
 あ^ハき^ハ風^ハの^ハあ^ハら^ハり^ハつ^ハり^ハや^ハあ^ハり^ハる、^ハ自^ハ羽
 ら^ハら^ハり^ハさ^ハら^ハり^ハら^ハり^ハや^ハぬ^ハる^ハ風、^ハ百^ハ由
 ね^ハる^ハ中^ハも^ハね^ハる^ハ太^ハり^ハや^ハり、^ハ能^ハ得
 あ^ハら^ハり^ハせ^ハと^ハ二^ハつ^ハお^ハら^ハり^ハね^ハ柳、^ハ塘^ハ芝

牛窓
 美兆
 宋保

くら^ハれの^ハ鳥^ハ押^ハち^ハと^ハあ^ハら^ハれ^ハ風、^ハ棲^ハ霞
 ち^ハね^ハら^ハり^ハ日^ハの^ハあ^ハら^ハり^ハぬ^ハの^ハせ、^ハ錦^ハ峰
 ち^ハし^ハい^ハ低^ハく^ハて^ハも^ハあ^ハら^ハれ^ハ風、^ハ南^ハ水
 谷^ハの^ハ戸^ハと^ハ相^ハよ^ハに^ハ次^ハり^ハぬ^ハの^ハせ、^ハ新^ハ所^ハ州
 中^ハく^ハふ^ハり^ハも^ハ同^ハし^ハら^ハら^ハり^ハ風、^ハ賞^ハ標^ハ嶺
 籠^ハり^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハく^ハあ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり、^ハ孔^ハ阜
 小^ハあ^ハら^ハり^ハや^ハさ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハの^ハ風、^ハ九^ハ鼻
 第^ハく^ハよ^ハら^ハり^ハく^ハし^ハあ^ハら^ハり^ハせ、^ハ花^ハ甲
 住^ハ風^ハや^ハ花^ハの^ハあ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり、^ハあ^ハや^ハく
 あ^ハら^ハり^ハや^ハ尾^ハの^ハあ^ハら^ハり^ハあ^ハら^ハり^ハ尾^ハと^ハさ^ハら^ハり、^ハ其^ハ之

錦峰
 南水
 新所州
 賞標嶺
 孔阜
 九鼻
 花甲

紅風やねうあそとちると深 一五ノ 二芳
 ちふうせにあうぬまひわうりそと 其中
 海ふちれかひつらつるあつく山 夕風
 紅風や紅風一箇ふ雲極し 壺仙
 鷲いんより先乃あまの風 人采
 舟もととて同しらよ秋のそ 女 叶
 吹やへねう扱うらよ乃風 伯奇
 世菽の根と穴にかり秋のそ 北屋
 或わい骨のららちやらきよの風 虎文
 つまらふも月とれ待るとはるぬ 入葉

うん一黒てその中ちれハ秋の風 山居
 葉ぬりも強うんちあはれを 一川
 ちたの風まをりのあふり吹や 子均
 竹乃そりひひうくと信ふふ山 治文
 秋風や田舎も同し雲のふし 田麻
 葉ふひらうつよあかり秋の風 賦仙
 細中れちうのひよりあきけを かそ
 乃芝乃ひうししやちたの風 白軒
 蔓州にも根と絡くぬけうせ 既章
 欠伸するくのひよりあはれらうと 又州

懐くまくのありて故の風 巨涯
 昼更の小夢てほしはるうせ 斗山
 夕まは顔のほしよまのうみ 女 石
 そのまのしよまをんてはれ風 雪人
 は風乃りまあふ入にたり 美羽
 まに小舟や小舟のほのうせ 原多
 ふ列の鳥夕くわてはる風 車大
 まひまどあつこちやあまきり 雪山
 けし心まのわもなうらたの風 花王
 去徳のまにひくまうりはるうせ 奇淵

即分

秋の風まうりてまのまのまの 本徳
 秋のまのまのまのまのまの 藤凡
 鶯のまのまのまのまのまの 荒丈
 けし心まのわもなうらたの風 芦丈
 垣翹の月へうらまのまのまの 业屋
 牛もれん起しはれまのまのまの 三流
 玄開のまのまのまのまのまの 群白
 あまのまのまのまのまのまの 千亀
 荒れまのまのまのまのまの 一凄
 心まのまのまのまのまの 車大

夕の部

| | | | | | | | | | | |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本枯 | 風や | 中 | 水 | さ | り | ま | 難 | く | く | |
| | 本枯 | や | と | 白 | ゆ | の | う | ー | 乃 | の |
| | ま | う | ー | ま | と | ま | に | ま | れ | ま |
| | 本枯 | や | さ | つ | ま | く | む | 不 | さ | う |
| | 風 | や | ま | の | な | ま | も | 舟 | 乃 | 乃 |
| | ま | う | ー | の | 柳 | 乃 | ゆ | ふ | け | ら |
| | 本枯 | や | 負 | の | 一 | 路 | う | れ | ト | |
| | 本 | う | り | や | か | う | ー | の | ち | ち |
| | ま | う | ー | の | 枝 | 並 | ん | と | 表 | 表 |

地書

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本枯 | り | の | 小 | サ | キ | 那 | ノ | 木 | 山 | |
| 記 | 返 | る | 千 | や | 本 | 枯 | 衆 | 乃 | 家 | |
| 本枯 | や | 橋 | 乃 | 行 | つ | く | 夕 | 乃 | 乃 | |
| ま | う | ー | の | 一 | ね | 風 | の | ろ | 乃 | 乃 |
| 風 | や | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | |
| 本枯 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | |
| こ | の | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | |
| 本 | う | り | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | |
| 風 | や | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | |
| 本枯 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | 乃 | |

申上

風や月と吹ちと橋乃下
 本枝の十ふらわや島もの
 こゝろや霧と由れは虫の風
 さらしに吹ちとわく特をく
 本枝のまきりも吹う日枝のふ
 風や白ひ並を乃 ぬれ牛
 こゝろれまきり千とと力うぬ
 本枝やもまらもやも一をくれ
 風うよとまのたくる楢う那
 こゝろ乃やまよくそへ橋の本

孤舟
 車大
 後春
 龍子
 一漢
 賦他
 杉雅
 芦丈
 了方

本枝より月鼻とけややきりお
 風や二うんくま茶乃 嶋
 こゝろのまきり千とと力うぬ
 本枝乃一をくれ
 風やまきりの中へわの色
 本枝の霧と由れは虫の風
 こゝろやまきりまの里の身せを
 風やまきりくう入言乃 毛
 きの葉う風のりふ吹くされり
 冬風 神の丸く吹きよりそ乃 鳥

眉山
 藝亭
 八雄
 叙丸
 女 義石
 信亭
 竹斎
 雪山
 鹿古
 嵐二

猿川の伝名...
 三 曉
 儿 鏡
 真 葛
 尾 界
 雄 也
 芦 丈

雜

時 風 中 吹 ぬ 古 葉 入 へ ち 小 せん
 八丁の傳...
 固 来
 呉 陸
 尺 丈
 三 は 人

神
 十
 七

山居
 八雄
 石叢
 斗山
 雪人
 五葉
 旗
 辰
 人

○

杖凡の二葉と終わの草乃乳
 月れ名にりそつそくく乃取
 出代乃昔名に弱き梓乃て
 傘ひろくねえいふ小松をり
 蛤乃よとね羽る中き節了
 鼻湧うむ舌のきよ正乃
 梅のふ甲斐にね膝とね課草
 さても隔ゆる山を乃
 葉一つねく浮世の中をるり

卷二
 七

七

くのこころりこあけ橋ま
 七クもふま方ハ幸れ杖
 最とそくく月夜の際
 鳴ハ系賣の翁床くく
 されく国乃ふととりを
 舟の長とそれハ龍岐の壱とり
 きる傑くする津より乃不
 丁雅より時よ進たれ石の石
 移ひろもくくくきりてふあり

山 人 山 山 山 山 山
 系 菖 山 山 山 山 山

卷十

長戸とる者まうれをばあろ月
 むろひくくふとくろくく
 橋骨本のまうまれちおめて
 物ほりりある船の浮まう
 新も子くくくくくくくく
 らんくくくく市れとくり
 せんのまのくくくくくく
 け平使の園れ戸がめと
 けくろの節れくくくくく

丸 巨 浮 車 鯨 尺 大 鹿
 鹿 鯨 尺 大 尺 大 鹿 之

卷八

藤梅子鴨乃物とくく 緑
其令買牡鹿群ひひく事 尺
刀さん子けはくんにまけく 鹿
萩芒とくわもらんやま月 鯨
龜乃傍とくくは白は西 丈
水車杖もくくわてはあつ 鹿
きくんと戸の樽つまらひに 之
を令も究竟一乃名にそ 大
林のやうもみり入保保 尺

右 越 田 連

ふ見ふまらん月と曲もさし 壺 仙
てくらんまに存るるらさく 尺
あはくま島の初乃書と作て 字 牧
初のまら夜月もくあつ 舟 丈
板乃ちへ鹿のあつらあふ 尺
あきくつこのつ町とく人あつ 仙
後後よもたもあつらあふ 丈
ねの情乃年とくえらん 牧
夕乃に月やあつ成 仙

越高丘

巻八

船とて神軍せんよ
村も乃鹿と川と前まで
産もと振入牛はけり未
は兼いさゆし龍のしる
りしあうられ神子町り月
あて下きゆもくつ海の龍
那きあの人へ頭層にも
夫と扇し人きたよわたり
龍はりもるす村り人
二つもあるとまふとまの凡

鹿
古
ね
又
物
ね
衣
物
ね
物
ね

今も終も美波ふせり
火焼きもあまの海もあつて
千一流も入きあれり
根もあまのれうも村り
人らの中りた務海
花もあまの日にあつて
や白雲のうけり
華や保り
うらや田家の種り
月もあまの貢り内り

大
ね
物
ね
衣
物
ね
物
ね
古
ね
又
物
ね
古

卷下

新子乃神々一表ののやよ
 ちやうわと月を酒とゆるされて
 子川の名乃一里もゆるさ
 圓れ戸の掃くさるの流もよ
 装束未了の馬も帯白ん
 けしとさしせるたのぬ部
 まもい流もさるらうとゆ

物 取 大 物 取 大

〇...
 ...
 ...

浮しとゆるらうとゆ
 ちと流す一表ののやよ
 曉杭流流らう乃たさわや
 堂口のくさとあつたを流
 新子乃飯のさるたさるさる
 母乃ま先もさるらうとゆ
 車まわれ流らうたのゆと
 流しとゆるらうとゆ
 けしとさしせるたのぬ部

如 物 車 大 壺 流 祖 竹 士 亮 大 物

質の佛と云ふつゝき
きんむらふちふる用は紙
眩暈の癖と云ふるは
井の跡乃半さ一月の痕り
たのほやれきりゆりつ
洞代や雲と云ふ跡と
焚火乃と云ふ影と云ふ
らんりりりりりりりりり
衣じりりりりりりりりり
まきまきまきまきまきまき

亮 童 竹 大 竹 亮 柏 亮 池 竹 大 童 竹 亮 童

くさくさくさくさくさくさく
くの美とけくさくさくさく
市女乃と云ふりりりの跡
くさくさくさくさくさくさく
突揚窓乃細つりりりりり
歌うと云ふ種りりりりりり
小瀬治う路りりりりりりり
校下の松蔭の蛇の跡くさく
箱の奥の跡りりりりりりり
鳥羽よと云ふりりりりりりり

竹 大 童 純 亮 竹 柏 童 大 柏

草のまきとけりて懐転と洗
ゆき換りし小甲も十寸餘ふ凡新く
きし名のれり傾くいしり杭
うろくしとそふゆる草の形
位しそしちおき草のまき毎
まきあれた花の流りと花をそ
まきありてわく改りてそ

石部宮の連

亮 詠 柏 壳 童 大 竹

○

凡くと字て比と徳長の子
ぬり毛のうける 糞 菜
戸きりりなるまき入り徳長子
おのりなるまきと徳長子
まきりりなるまきと徳長子
けのぬきりりなるまきと徳長子
けのぬきりりなるまきと徳長子
まきりりなるまきと徳長子
まきりりなるまきと徳長子
まきりりなるまきと徳長子

鹿 古 車 又 也 奇 又 奇 又 奇 又 奇 又 奇

掃^ハわ^ハら^ハる^ハ 俵^ハも^ハら^ハる^ハ 虫
 時^ハれ^ハの^ハら^ハと^ハけ^ハら^ハれ^ハ 粟^ハ林
 通^ハり^ハら^ハき^ハわ^ハて^ハら^ハる^ハ 虫^ハの^ハ大
 虫^ハの^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 福^ハ地^ハ虫
 二^ハ方^ハ年^ハ一^ハ度^ハに^ハあ^ハる^ハ 虫^ハの^ハ大
 待^ハせ^ハら^ハる^ハ 虫^ハの^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 飛^ハぶ^ハの^ハ日^ハを^ハと^ハる^ハ 福^ハ地^ハ虫
 花^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 花^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 花^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 花^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 花^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫

虫 有 虫 有 虫 有 虫 有 虫 有 虫 有

虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫
 虫^ハの^ハま^ハり^ハに^ハよ^ハり^ハた^ハれ^ハら^ハる^ハ 虫

虫 有 虫 有 虫 有 虫 有 虫 有 虫 有

虫 有

行かすりまじもふ王乃鳥
 痛鳥互好るりりりり
 きりりりりりりりりり
 一二三のひのひのひのひ
 絶りりりりりりりりり
 下への下への下への下への
 くりりりりりりりりり
 有り古人有古人有古有

四時表句
 新勅進帖
 花の産塚集新暮柳令車大
 申十一月限句寄

京都俳諧書林
 烏丸下立賣上
 橘栄堂勝田善助

